



仲間とともに  
その45

習字の会

12月13日のお稽古に参加していたメンバーの皆さん。回地以外の避難先から通う人もいます

友人と一緒にこの会を立ち上げた山田恵さん(関根・松塚)は「筆字を書く機会があるたび、習っておけばよかったと思う」と、そのきっかけを話します。長正サツキさん(大久保・外内)に指導を依頼し、月に2回のお稽古で、書道に親しんでいます。「先生のご指摘で、字が変わります」。それぞれが書いてみたい題材を選んで取り組める自由な雰囲気も楽しそう。子どもの頃、長正さんの教室に通っていたという遠藤梢さん(大久保・外内)は、「久しぶりで楽しい。集中できるのがいいです」と、書に向きあう時間を楽しんでいました。

活動データ

- メンバーは6人。村営の復興公営住宅飯野町団地の集会所で、月に2回、火曜日に稽古をしています。
- 活動を始めたのは平成28年の4月。村でも教室を開いていた長正サツキさんが指導をしています。

「までこ」への共感 渋谷から

12/2



除幕の後、「までこライフ」の意味や、多くの村民が協働し地域おこしに取り組んでいたことを説明する菅野村長(左から2人目)。右端が今村復興大臣、左端が小松原理事長。石碑は村特産のみかげ石で作られました。



いいたてホームや村の小学校に花を贈るなど、同復興組合の支援は平成24年から続きます。平成26年に寄贈いただいた忠犬ハチ公のオブジェは、いいたてホームで村民の帰村を待っています。

東京都渋谷区の渋谷公園通り商店街に「までこライフ」を顕彰する石碑が建てられました。同商店街復興組合(小松原一雄理事長)が、避難指示解除をひかえる村の新たな村づくりを応援しようと設置したもので、除幕式には、今村雅弘復興大臣も駆けつけました。菅野村長は、関係者に感謝を伝え、「復興した姿を見ていただければいい」と決意も表しました。

表紙 飯館中学校のふるさと学習発表会  
発表会の後、保護者らによる投げ餅や餅料理の振る舞いで故郷を味わいました。記事はP12で。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。